

2010 年度小委員会活動成果報告

(2011 年 2 月 21 日作成)

小委員会名	建築プログラミング小委員会		主 査 名：山田哲弥 就任年月：2009 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築社会システム委員会		委員長名：森本信明
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	設置目的：施設の所有者・利用者・事業主など竣工後に建築を活用する立場から見た価値の高い建築を創り上げるための、経済的・社会文化的価値発現メカニズムを探求すること。さらに、建築プログラミングの知見を広く、会員・社会に敷衍し、より価値の高い建築物の創造に寄与することを目的とする。 2010 年度計画： 1)事例調査研究の実施、2)公開研究会の開催、3)小委員会HPによる情報発信		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：有		
	山田哲弥 (清水建設)、藤本秀一 (建築研究所)、柳澤要 (千葉大)、井上誠 (宮城大)、岡田昭彦 (NTT ファシリティーズ)、毛谷村英治 (立教大)、児玉達朗 (東京電力)、末廣健一 (山陽学園大)、津島光 (近畿大)、増村昭二 (日本設計)、松下聡 (福井大)、溝上裕二 (ジョンソンコントロールズ)、柳父行二 (大阪ガス)、柳沢和彦 (武庫川女子大)		
設置 WG (WG 名：目的)	価値創造モデル化WG：小委員会と同時開催し、公開研究会の企画、実施、資料作成などの実務を担当するとともに、調査結果の分析・モデル化などの個別の研究テーマについても、各メンバーが自主的に活動する。		
2010 年度予算	50,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：http://news-sv.ajj.or.jp/keizai/prg/	

項 目	自己評価
委員会開催数	10 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は 除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 建築プログラミング公開研究会「至民中学校のプログラミングプロセスを巡って」 参加者数 38 名 (資料名) 同上
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 福井市至民中、岡山県立図書館等の事例を取り上げ、調査研究を実施。近畿支部研究発表会にて、調査研究の成果を発表。(柳父) 2. 9 月 29 日に福井市至民中学校にて、公開研究会を実施。 3. HP にて情報公開するだけでなく、公開研究会資料集ファイル共有も実施。
委員会活動の問題点・課題	1. 委員会予算が限られ、遠方の委員が参加しにくい。→TV 会議にて対応。 2. 委員会の世代交代を進める。→WG を設置、若年研究者にも参加契機。 3. 広く成果を展開するための方法の検討。

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。